

# Business Report

## 株主の皆様へ

### 第77期 報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

#### トップメッセージ

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は当社事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。新たに株主となられた皆様には、心よりお礼申し上げますとともに、末永くご支援の程お願い申し上げます。

さて、このほど第77期の決算がまとまりましたので、ここに2018年4月1日から2019年3月31日までの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

#### 《連結業績のご報告》

当連結会計年度の当社グループを取り巻く経済環境は、わが国経済は企業収益は改善に足踏みがみられるものの、政府や日本銀行の各種政策の効果により雇用情勢や個人消費は持ち直し、景気も緩やかに回復しました。また、アジア地域につきましては、中国についての景気は緩やかに減速していますが、先行きについては、各種政策効果が次第に発現することが期待されます。その他アジア地域についての景気は緩やかに回復しました。

印刷インキの需要先である印刷業界におきましては、世界的に出版印刷はコンテンツのオンラインプラットフォームへの移行により減少し、商業印刷は前年並みとなりましたが、パッケージ印刷は増加したことにより、全体としては成長がみられました。日本の印刷業界においては、出版印刷は世界の動向に沿って減少し、チラシの大幅な減少により商業印刷も減少しましたが、パッケージ印刷は堅調に推移しました。

特殊UVインキの関係する液晶パネル関連市場は、僅かに成長しましたが、大幅な価格下落により、一段と激化し厳しい販売環境となりました。

このような経営環境の中で、当社の経営理念でありますT&K(Technology and Kindness=技術と真心)の精神に則り、



代表取締役社長

ますだ よしかつ  
増田 至克

ユーザーニーズに耳を傾け、ユーザーの真に役立つ製品の開発・供給に注力し、よりきめ細かいサービスに努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度における連結子会社の増加により平版インキの販売が増加、一般UVインキの販売が増加したことにより、496億38百万円(前年同期比3.5%増)となりました。利益面におきましては、中国の環境規制強化による化学品の供給量減少等の影響による原材料価格の上昇及び販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益は3億68百万円(前年同期比80.7%減)となりました。経常利益は、持分法による投資利益5億93百万円を計上したことにより、10億95百万円(前年同期比58.8%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産受贈益1億23百万円、固定資産除却損1億61百万円、法人税等3億42百万円を計上したことにより、6億27百万円(前年同期比69.3%減)となりました。

次期の経済環境は、国内外において、世界的に緩やかな回復が続くことが期待される一方、米国の通商問題や政策の動向、金融資本市場の変動などの影響には引き続き注意する必要があります。当社グループにおいても、高騰した原材料価格など、厳しい事業環境が予想されますが、「中期経営計画 With You toward 2020」に基づいて企業体質・経営基盤の強化を図り、事業の拡大を目指してまいります。

#### 《期末配当金》

当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、配当につきましては長期的・安定的な配当を維持し、業績に応じた利益還元をしていくことを基本方針とし、連結配当性向30%以上を実施していく予定であります。

第77期の期末配当につきましては、1株当たり17円とさせていただきます。当期の配当としては、2018年12月に実施した中間配当金17円を含め、1株当たり34円となります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

## 決算ハイライト

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
496億38百万円 前年同期比 3.5%増	3億68百万円 前年同期比 80.7%減	10億95百万円 前年同期比 58.8%減	6億27百万円 前年同期比 69.3%減

### Topics 1 炭素繊維分散エポキシ樹脂組成物『テナシス』を発表しました。

『テナシス』は、炭素繊維を細かく粉碎した「ミルド炭素繊維」を、インキの顔料分散技術を利用してエポキシ樹脂に高濃度で均一・安定分散させた組成物です。ラテン語で「剛直」、フランス語で「接着」という意味の『Tenacis (テナシス)』と名付けました。

#### 特長①

液状にすることで、従来、炭素繊維では困難であった複雑形状にも容易に成形が可能です。

#### 特長②

炭素繊維の特性があることから、硬化物は純アルミと比較し、同等以上の強度、半分以下の軽量化を実現しています。

#### 特長③

硬化物は膨張係数が低く、寸法安定性に優れています。

#### 特長④

構造用接着剤（異種材料接着）や補修剤など、高強度接着用途への展開も見込める優れた接着力を有しております。

#### 展開

炭素繊維の活躍が期待されるあらゆる分野での展開が可能と考えております。例えば、自動車分野、航空・宇宙分野、スポーツ分野、発電・エネルギー分野、さらに医療から建築土木分野に至るまで、幅広く提案していこうと考えています。具体的には、まず自動車を主体に、産業機械、介護ロボット、ドローンなどの各種軽量部品としての展開を想定しています。

軽くて強い、そして、様々な形状に加工できるという特長・特性は多くの分野で生かせると考えております。



### Topics 2 《環境対応型インキのご紹介》水性フレキシインキ『さんずい』

近年、人体や地球環境への影響が重要視され、安全性や地球環境保全が求められています。インキ業界では、主に食品包装に使用される軟包装印刷（※）の分野で、従来主流である溶剤系グラビアインキに代わるインキとして、環境負荷が少なく、安全性の高い水性フレキシインキが注目されています。当社も水性フレキシインキ『さんずい』を開発し、展開しております。

（※）軟包装印刷＝プラスチックフィルムなどのような薄く柔軟性の富む基材への印刷。冷凍食品やスナック菓子類などの食品包装をはじめ、幅広い分野のパッケージに利用されています。

#### ◆水性フレキシインキ『さんずい』

『さんずい』は、当社が開発した水性フレキシインキ。環境性、安全性、高品質の特長を有しています。

#### 特長① 環境性

インキ中に含まれる有機溶剤等のVOC（＝揮発性有機化合物）成分が極めて少なく、環境に優しいインキです。地球環境負荷の低減に貢献します。

#### 特長② 安全性

印刷物への溶剤残留の心配が少なく、人体への安全性が高いインキです。食品パッケージ等、高い安全性が求められる印刷物に適しています。

#### 特長③ 高品質

フレキシ印刷の課題とされていた印刷品質を克服。従来の溶剤系グラビア印刷に匹敵する濃度感、写真表現を実現しました。

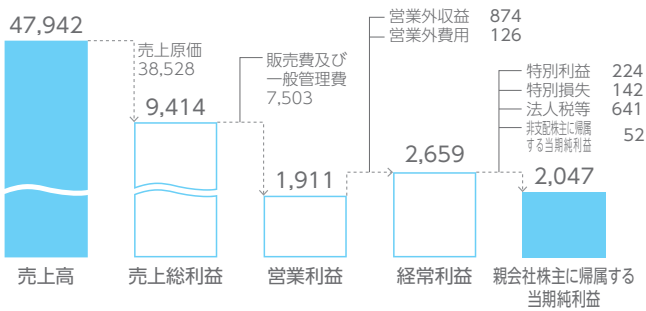
高品質と環境性、安全性を兼ね備えた『さんずい』は、フレキシインキのイメージを覆す画期的なインキとして、軟包装印刷のスタンダードとなる可能性を秘めています。



安全性の高い水性  
フレキシインキは、  
お菓子などの食品包装に  
最適！  
今後のさらなる拡大が  
期待できます。

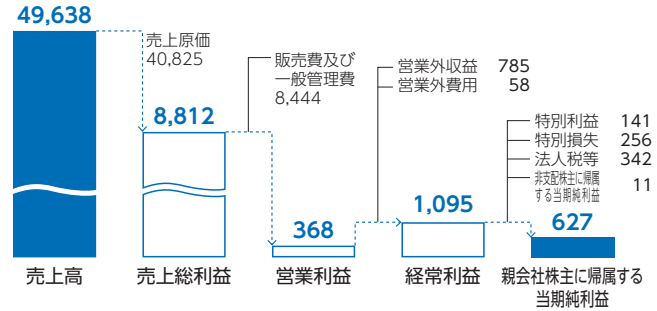
# 連結財務諸表

## ▶ 連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



第76期

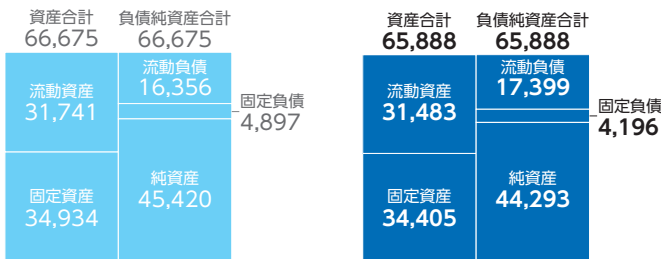
2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日



第77期

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

## ▶ 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



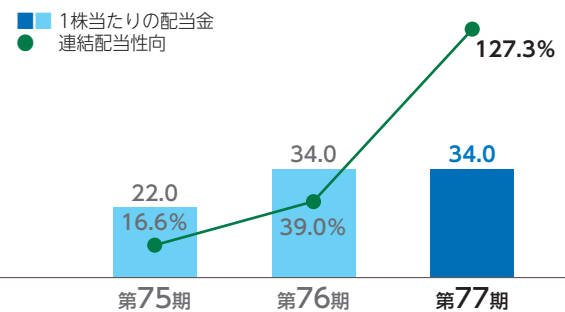
第76期

2018年3月31日現在

第77期

2019年3月31日現在

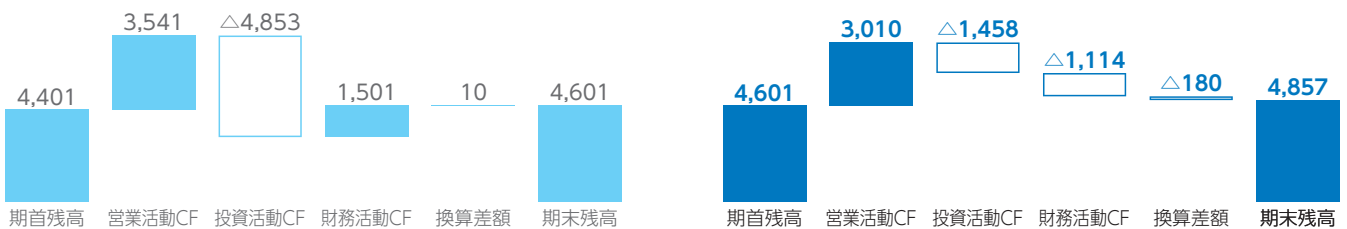
## ▶ 1株当たりの配当金・連結配当性向 (単位：円)



(注) 第75期期末配当には、記念配当4円50銭が含まれております。

## ▶ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

※ CF=キャッシュ・フロー



第76期

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日

第77期

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

## ▶ 第77期 財政状態の説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態に関する説明については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

当連結会計年度末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて7億86百万円減少し、658億88百万円となりました。これは、商品及び製品が4億68百万円、投資有価証券が3億36百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が5億5百万円、流動資産(その他)が3億64百万円、有形固定資産が4億49百万円、のれんが2億46百万円減少したことが主な要因であります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて3億41百万円増加し、215億95百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が2億7百万円、長期借入金が8億2百万円減少したものの、電子記録債務が1億42百万円、短期借入金7億72百万円、未払金が3億97百万円増加したことが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて11億27百万円減少し、442億93百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が3億56百万円、為替換算調整勘定が9億16百万円減少したことが主な要因であります。

## 会社の概要 (2019年3月31日現在)

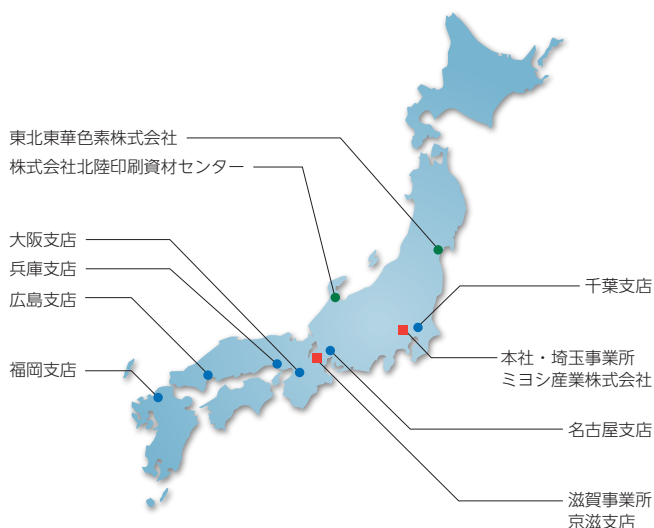
商号	株式会社T&K TOKA T&K TOKA CO., LTD. (英文名)
創業	1947年(昭和22年)3月25日
設立	1949年(昭和24年)12月23日
本社所在地	埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢283番地1
代表者	代表取締役社長 増田 至克
資本金	20億80百万円
事業内容	各種印刷用インキ及び印刷用・塗料用・接着剤用合成樹脂の製造・販売、印刷関連諸資機材の販売、輸出入貿易
従業員数	752名(47名) 注：パート及び嘱託社員は()内に平均人員を外数で記載

## 役員一覧 (2019年6月20日現在)

代表取締役社長	増田至克
常務取締役	吉村彰
常務取締役	北條実
取締役	栗本隆一
取締役	中間和彦
社外取締役	磯貝厚太
社外取締役(監査等委員)	木田卓寿
社外取締役(監査等委員)	大高健司
社外取締役(監査等委員)	野口郷司
社外取締役(監査等委員)	英公一

※英 公一氏は、2019年7月1日に就任いたします。

## 事業拠点 (2019年3月31日現在)



海外拠点(子会社)	株式会社チマニートカ：インドネシア共和国 東華油墨国際(香港)有限公司：中華人民共和国香港 韓国特殊インキ工業株式会社：大韓民国 トオカ(タイランド)株式会社：タイ王国 Royal Dutch Printing Ink Factories Van Son B.V.：オランダ王国 Van Son Holland Ink Corporation of America：アメリカ合衆国 浙江迪克東華精細化工有限公司：中華人民共和国 T&K TOKA U.S.A., INC.：アメリカ合衆国 Midwest Ink Co.：アメリカ合衆国
-----------	---

## 株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,055,440株
株主数	10,119名

## 株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年決算期日の翌日から3ヵ月以内
剰余金配当基準日	3月31日及び中間配当を行うときは9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の 証券会社等に なります。	みずほ証券株式会社 本店及び全 国各支店 プラネットブース(株式会社みずほ 銀行内の店舗)でもお取扱いた します。  みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱 できませんのでご了承ください。
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行株式会社(※)及び株式会社みずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券株式会社では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の [特別口座の場合]の郵便物送付 先・電話お問い合わせ先・各種 手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買 増以外の株式売買はできません。証券会社 等に口座を開設し、株式の振替手続を行 っていただく必要があります。

公告方法 当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。当社の公告掲載URLは次のとおりであります。  
<https://www.tk-toka.co.jp/ir/kokoku/>

## ホームページのご案内

当社ホームページは、IR情報や技術情報、会社情報等充実した内容となっております。どうぞご覧ください。



<https://www.tk-toka.co.jp>